

平成30年5月30日
教育課程部会
児童生徒の学習評価に関する
ワーキンググループ
資料2-1



「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善 のための参考資料」作成について

国立教育政策研究所
教育課程研究センター 基礎研究部
総括研究官 二井正浩

1 平成10・11年版学習指導要領に基づく

「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料」

(平成14年小学校・中学校，平成16年高等学校(資料A))

(1) 平成12年12月4日 教育課程審議会答申

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について」

国立教育政策研究所の教育課程研究センターにおいて，平成14年度からの学習指導要領の実施に向け，早急に評価規準，評価方法等の研究開発を進め，参考となる指針などを示す必要がある

(2) 国立教育政策研究所の取組 (高等学校の例)

① 作成の方法

- ・ 小中学校に準じて，高等学校学習指導要領及び解説に基づき，評価規準を作成
- ・ 研究開発の過程において，研究所の示す評価規準案の検証等を行うため，教育課程研究指定校における研究を実施

②資料の内容構成

第1編 総説 (A:pp. 総-1～22)

評価の考え方，資料の構成，留意事項等を詳説

第2編 各教科における評価規準の作成，評価方法の工夫改善

第〇章 〇〇(教科名)

第2章 地理歴史 (地理歴史の例)

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨 (A:p. 地-1)

1 教科目標

教科目標は，学習指導要領に示す当該教科の目標を記載

2 評価の観点及びその趣旨

評価の観点及びその趣旨は，指導要録改善通知で示された当該教科の評価の観点及びその趣旨を記載

第2 各科目の評価の観点的趣旨 (A:p. 地-1～)

(青字:国研の作成部分)

- ・ 学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨を基に作成
- ・ 普通教科は全科目について，職業に関する教科は各分野の基礎的な科目について作成

第3 必履修科目(原則履修科目)における

内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例 (A:p. 地-2～)

I 科目名 (「II 世界史B」の例, A:p. 地-21～)

1. 目標

学習指導要領に示す当該教科の目標を記載

2. 科目の評価の観点・趣旨

(第2を再掲)

3. 学習指導要領の内容, 内容のまとめりごとの評価規準およびその具体例

- ・内容のまとめりごとの評価規準は学習指導要領, その具体例は解説書を基に作成
- ・内容のまとめりは, 教科・科目の特性等に応じて定め,
すべての内容のまとめりを網羅

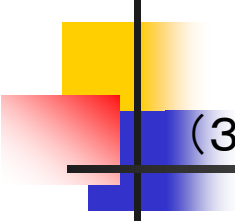
(「世界史B」の場合, 学習指導要領中項目19まとめり)

第4 単元の評価に関する事例 (「II 世界史B」の例, A:p. 地-90～)

I 科目名・単元名

1. 単元の目標
2. 単元の評価規準
3. 指導と評価の計画
4. 観点別評価の進め方
5. 観点別評価の総括

} 教育課程研究指定校の実践を基に事例を作成



(3) 参考資料のその後

①「こんなものをつくった人間の顔が見たい」

➡ 新しい評価への深刻な不安・誤解に直面

- ・負担感

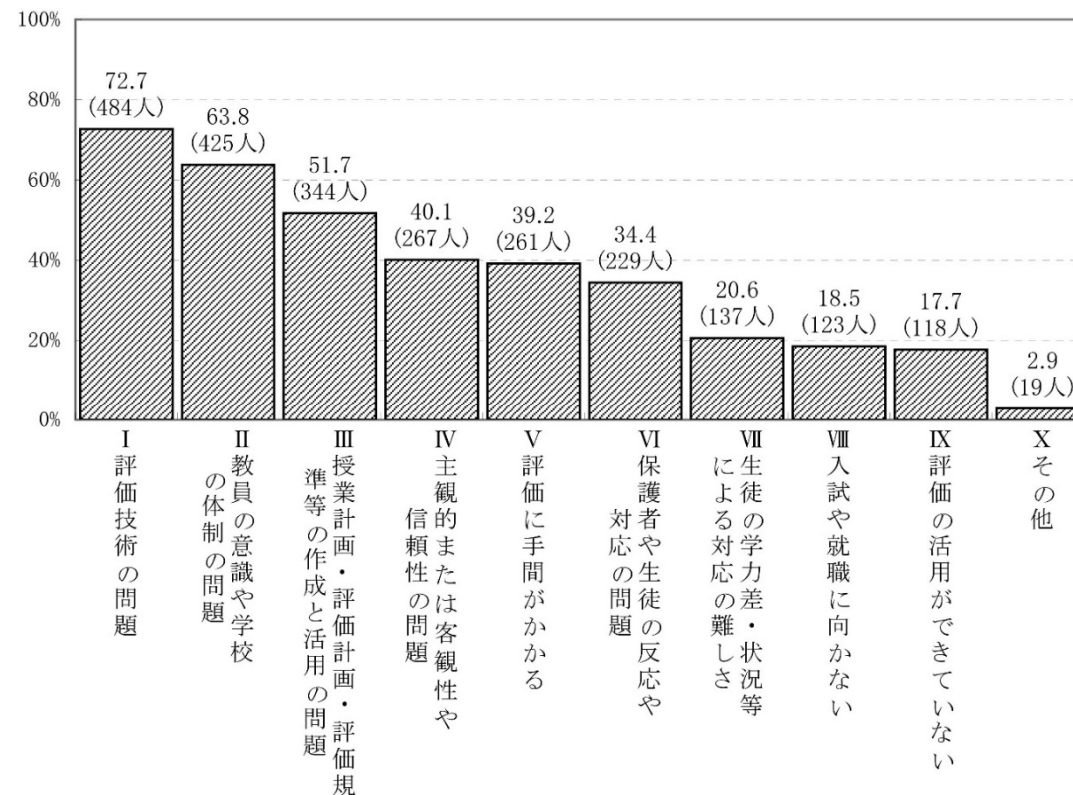
- ・評価技術への不安

Ex.「客観性」への疑念、評定への総括の方法 など

- ・参考資料の模倣による主体性の喪失

など

②「目標に準拠した評価および観点別評価を実施する際の課題は何か」



(独立行政法人教員研修センターの平成18年度から平成21年度までの

「教職員等中央研修・中堅教員研修」への参加者666名へのアンケートを二井が整理
平成23年 科研報告書, 研究代表者; 工藤文三

「高等学校における学習の評価の実態把握と改善に関する研究」より)

2 平成20・21年版学習指導要領における評価

～平成22年3月24日 中央教育審議会 初等中等教育分科会

教育課程部会 報告 「児童生徒の学習評価のあり方について」

- ①目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
→**学習評価のあり方を基本的には維持しつつ**, その深化を図る
- ②従来の評価の枠組みを基盤としつつ, 学力の3つの要素を踏まえて評価の四観点を再整理
→**「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」**に整理
- ③学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進, 国や都道府県教育委員会等が, 参考となる事例を示すなど, **具体的な支援**を充実
→**国立教育政策研究所での参考資料作成**
- ④各学校においては, 学習評価の妥当性, 信頼性を高めるよう努めることが重要
→**「妥当性, 信頼性」**の強調



⑤高等学校の指導要録

- 平成13年4月27日初等中等教育局長通知においては、(中略)評定のみが示され、**観点別学習状況の評価の結果は記載すべき事項とはされていない。**(中略)、大枠のみを示すという基本的な考え方を維持することとする。
- 設置者である都道府県教育委員会等においては、きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の定着を図るため、**指導要録において観点別学習状況を記載できるようにすることも有効な手段**であると考えられる。その際、併せて、都道府県教育委員会等において、国等が示す資料を参考にしつつ、評価規準や評価の参考となる具体的な事例を示すなど、学校の支援に努めることが重要である。

3 平成20・21年版学習指導要領に基づく

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」

(平成23年小学校・中学校, 平成24年高等学校 (資料B))

(1) 国立教育政策研究所の取組 (高等学校の例)

① 作成の方針

- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
- 学力の重要な要素を示した平成20・21年版学習指導要領等の趣旨の反映
- 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学力評価の推進
- 平成10・11年版学習指導要領に対応した参考資料を基にしつつ、改善

② 改善点

A) 負担感や円滑に実施できていない点についての対応

- ・効果的・効率的な評価事例の提示 (評価時期や評価方法についての配慮)
- ・「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」の観点の評価事例の提示

B) 各学校には評価規準を設定する役割があることを明確にすること

C) その他

- ・各学校, 各教員が手に取り, 観点別評価に取り組んでみようと思うような資料
- ・観点別評価の必要性やメリット, 指導と評価の一体化について
分かりやすくコンパクトに解説
- ・各教科科目の事例は細かくなりすぎないように配慮し,
観点別評価の大まかな流れを提示

第1編 総説 (B:p. 5～)

Q&A形式で整理

- ・手にとって、
取り組んでみようと思うような資料
- ・必要性やメリットの伝わる資料

I. 新しい学習指導要領を踏まえた学習評価の基本的な考え方はどのようなものか。

II. 目標に準拠した学習評価により観点別学習状況の評価を行うことは高等学校の生徒にどのようなメリットがあると考えられるか。

III. 目標に準拠した評価を進めていくに際して、評価規準の設定等はどのようにしたらよいのか。

IV. 実際に評価を行うに際しての方法はどのようにしたらよいか、その工夫改善はどのように進めたらよいか。

第2編 ○○科における評価規準の作成, 評価方法の工夫改善

第2編 地理歴史科における評価規準の作成, 評価方法の工夫改善 (地理歴史の例, B:p. 23~)

第1章 教科目標, 評価の観点及びその趣旨 (B:p. 23)

1 教科目標

指導要領より

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め, 国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

通知より

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究するとともに, 国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見だし, 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断して, その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し, 有用な情報を適切に選択して, 効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し, その知識を身に付けている。

第2章 世界史B (世界史Bの例, B:p. 25)

1 目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点の趣旨

学習指導要領,
通知, 解説書より
国研で作成

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

3 内容のまとめ

世界史Bでは学習指導要領の大項目を内容のまとめとすることを明示

4. 学習指導要領の内容, 内容のまとめりごとの

評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例 (B:p. 26~)

(4)諸地域世界の結合と変容 (B:p. 32)

【学習指導要領の内容】

アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。

ア アジア諸地域の繁栄と日本

西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそれの中の日本の位置付けを理解させる。

イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界

ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。

ウ 産業社会と国民国家の形成

産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。

エ 世界市場の形成と日本

世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とそれの中の日本の位置付けを理解させる。

オ 資料からよみとく歴史の世界

主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図や狙いを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。

学習指導要領,
通知, 解説書より国研で作成

内容のまとめりごとに項目立て

(世界史Bは内容のまとめりを学習指導要領の大項目として設定。例として「(4)諸地域世界の結合と変容」についてここで示す。

B:pp. 32-33)

各学校での作成を強調

【「(4) 諸地域世界の結合と変容」の評価規準に盛り込むべき事項】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程に関して、その時代に作成された文字資料や図像資料を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程に関する特色など、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

【「(4) 諸地域世界の結合と変容」の評価規準の設定例】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> アジア諸地域の繁栄と日本，ヨーロッパの拡大と大西洋世界，産業社会と国民国家の形成，世界市場の形成と日本など，16世紀から19世紀の歴史的事象に対する関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アジア諸地域の繁栄と日本について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ヨーロッパの拡大と大西洋世界について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 産業社会と国民国家の形成について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 世界市場の形成と日本について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 16世紀から19世紀の歴史的事象に関して，その時代に作成された文字資料や画像資料を多面的，多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から19世紀までの諸地域世界に関して，その時代に作成された文字資料や絵画，風刺画，写真などの画像資料から有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質と其中での日本の位置付けを理解し，その知識を身に付けている。 16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解し，その知識を身に付けている。 産業社会と国民国家の形成を理解し，その知識を身に付けている。 19世紀のアジアの特質と其中での日本の位置付けを理解し，その知識を身に付けている。

設定例であることを強調
内容のまとまりを
大項目として提示

学習指導要領，
通知，解説書より国研で例示

5. 評価に関する事例 (B: pp. 37-38)

(1) 世界史における観点別評価について

(2) 評価規準の設定について

} 事例の見方にも言及

円滑な評価方法への改善を提案

事例 (B: pp. 39-47)

世界史B 事例

単元名 ヨーロッパの拡大と大西洋世界

「(4) 諸地域世界の結合と変容」

キーワード：

思考・判断・表現、
資料活用 of 技能の評価

【(4) 諸地域世界の結合と変容」の評価規準の設定例】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> アジア諸地域の繁栄と日本、ヨーロッパの拡大と大西洋世界、産業社会と国民国家の形成、世界市場の形成と日本など、16世紀から19世紀の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アジア諸地域の繁栄と日本について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ヨーロッパの拡大と大西洋世界について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 産業社会と国民国家の形成について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 世界市場の形成と日本について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 16世紀から19世紀の歴史的事象に関して、その時代に作成された文字資料や図像資料を多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から19世紀までの諸地域世界に関して、その時代に作成された文字資料や絵画、風刺画、写真などの図像資料から有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそれの中の日本の位置付けを理解し、その知識を身に付けている。 16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解し、その知識を身に付けている。 産業社会と国民国家の形成を理解し、その知識を身に付けている。 19世紀のアジアの特質とそれの中の日本の位置付けを理解し、その知識を身に付けている。



(1) 単元の目標

- ア 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究できる。
- イ 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。
- ウ 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史に関して、その時代に作成された資料から、有用な情報を読み取ったり、図表などにまとめることができる。
- エ 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史の特色などを理解し、その知識を身に付けることができる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史に関して、その時代に作成された文字資料や絵画などの図像資料から、有用な情報を読み取ったり、図表などにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀から18世紀までの大西洋世界の歴史の特色などを理解し、その知識を身に付けている。

学習指導要領，解説書，協力者の実践等をもとに国研で例示

(3) 指導と評価の計画 (7時間)

学年	学習活動	関・思・技・知	評価規準等
第一 次 (1 時 間 扱 い)	<p>【狙い】南蛮船のアジアへの来航を促したヨーロッパ世界の動向について理解させ、単元の学習課題をつかませる。</p> <p>○「南蛮屏風」には何が描かれているか、気付いたこと、不思議に思ったことをノートにまとめたり発言したりする。</p> <p>○南蛮船のアジアへの来航を促したヨーロッパ世界の動向をワークシート1に書き込む。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>◎絵画をよく観察して、読み取ったことをまとめている。(ノート、発言内容)</p> <p>◎中学校や高校での既習事項を活用し、南蛮船のアジアへの来航を促したヨーロッパ世界の動向について理解している。(ワークシート1)</p>
第二 次 (1 時 間 扱 い)	<p>【狙い】封建社会の動揺などを背景におこったルネサンス、宗教改革などの特色について考察させ、その歴史的意義をつかませる。</p> <p>○その時代に作成された資料を活用して、中世とルネサンス期の芸術や字街観、宗教改革の内容をよみといたり、ルネサンスと宗教改革の関わりについて共通点と相違点に着目してワークシート2に書き込んだりする。</p> <p>○【学習課題①】に取り組む。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>◎古代ギリシア・ローマ時代に立ち戻り人間性豊かな生き方を求めたルネサンスは、やがて、信仰の原点を聖書に求めた宗教改革へとつながったことを整理し、適切に表現している。(ワークシート2、活動観察)</p> <p>◎ルネサンス期に、人間や自然に対する合理的な探究活動が始まったことを適切に表現している。</p>
第三 次 (1 時 間 扱 い)	<p>【狙い】アジアやアメリカ、アフリカに対する積極的な対外進出により、世界の経済構造は一体化に向けて大きく転換したことを捉えさせる。</p> <p>○アメリカ原産の食材を記したその時代の報告書を読み、現在のどんな食べ物に当たるか推測し、これらの食材が欠かせない身近な料理をノート</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>◎アメリカ原産の食材が世界に普及し、現在の私たちの食生活の一部を支えていることに気付く、関心を高めている。(ワークシート4、話し合いの様子)</p> <p>◎16世紀以降の世界的な貿易活動の展開を資料から世界の一体化に伴うアジアや大西洋世界の変容の様子をまとめ、適切に表現している。(ノート、ワークシート3)</p> <p>◎国際的な銀の流通が世界の一体化を促す原動力となったことについて考察し、表現している。</p>

評価場面の精選を視覚化

協力者の実践等をもとに国研で作成

	<p>【狙い】ヨーロッパの主権国家体制の特色を考察させ、その形成と展開について理解させる。</p> <p>○地球儀を活用して、ヨーロッパの位置や地理的特色について確認しながら、16世紀以降のヨーロッパの国際関係の課題をノートに記述したり発表したりする。</p>	<p>●</p>	<p>◎ヨーロッパはユーラシア西端の半島に位置し、多くの国家が集まっているという地理的特色をつかむとともに、16世紀以降には、国際関係を調整するための外交や国際法の発達をみたという国際関係の課題を考察し、適切に表現している。(ノート、発言内容)</p>
第四 次 (2 時 間 扱 い)	<p>○重商主義に基づく経済活動と植民地争奪戦争がヨーロッパ内外で展開されたことに着目して、ヨーロッパ諸国の覇権の推移や東ヨーロッパ諸国の動きなどをノートに記述する。</p> <p>○【学習課題③】に取り組む。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>◎ヨーロッパ諸国の覇権の推移や東ヨーロッパ諸国の動き、植民地争奪戦争の経過と結果などを整理し、主権国家体制の特色を理解している。(ノート)</p> <p>◎ヨーロッパの主権国家体制の特色を、中世ヨーロッパの封建国家体制や中国の冊封体制と比較し、適切に表現している。</p>
	<p>【狙い】ヨーロッパの主権国家体制を背景に形成された文化の特色を考察させ、この時代を総括し次の時代を展望させる。</p> <p>○その時代の作品から、王侯貴族による宮廷文化と、商業活動の活性化をもたらした市民文化の特色をワークシート5に記述する。</p> <p>○第一次から第五次までの学習内容を踏まえ、この単元で学んだ世界史の動向を特色付けるタイトルを考え、ワークシートに書き込む。</p> <p>○これまでの学習を踏まえ、18世紀後半以降の新たな世界史の課題を推測し、その結果をワークシート6に書き込み、次の時代の学習への取組について意見交換する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>◎主権国家体制と商業活動の活性化が特色ある文化を生み出したことを読み取っている。(ワークシート5)</p> <p>◎時代を概観してその特色を表すタイトルを自分の言葉で表現し、学習意欲を高めている。(ワークシート)</p> <p>◎18世紀後半以降の世界史の動向を展望し、次の時代の学習への取組について自分の言葉で表現し、学習意欲を高めている。(ワークシート6、活動観察)</p>
事後	<p>○単元終了後に実施される定期考査(ペーパーテスト)に取り組む。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>◎16世紀から18世紀までの大西洋世界の特色を多面的、多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>◎16世紀から18世紀までの大西洋世界に関して、その時代に作成された諸資料から有用な情報を読み取っている。</p> <p>◎16世紀から18世紀までの大西洋世界の特色を理解している。(上記3項目、ペーパーテスト)</p>

	関	第五次						
<p>■ 1 南蛮船のアジアへの来航を促したヨーロッパ世界の動向は何か？</p> <p><input type="text"/> ⇒ <input type="text" value="アジア"/></p>	技・知	第一次						
<p>■ 2 ルネサンスと宗教改革は、どう関わり合っているか？</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>ルネサンス</td> <td>宗教改革</td> <td>対抗宗教改革</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>【学習課題①】 問：「コペルニクスの転回」という言葉が持つ意味を考えてみよう。これまで世界史で学んだことから、この言葉がぴったり当てはまると思う歴史事象を取り上げて説明してみよう。</p> <p><input type="text" value="意味"/> <input type="text" value="歴史事象"/></p>	ルネサンス	宗教改革	対抗宗教改革				思	第二次
ルネサンス	宗教改革	対抗宗教改革						
<p>■ 3 新航路開拓によってアジアや大西洋世界はどう変わったか？</p> <p style="text-align: center;"><ヨーロッパ> <アメリカ> <アフリカ> <アジア></p> <p><input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/></p> <p>【学習課題②】 問：16世紀、大西洋、アジア海域、太平洋を舞台にした商品のやりとり（交易関係）をまとめよう。その交易関係から、世界をつなぐ原動力となったこと（もの）は何か、考えてみよう。</p> <p><input type="text"/></p>	関・思	第三次						
<p>■ 4 主権国家体制の特色は何か？</p> <p><input type="text"/></p> <p>【学習課題③】 問：これまでの学習から、ヨーロッパの主権国家体制は、中世ヨーロッパの封建国家体制や中国の冊封体制とどのように違うのだろうか、整理してみよう。</p> <p style="text-align: center;"><封建国家体制> <冊封体制> <主権国家体制></p> <p><input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/></p>	思・知	第四次						
<p>■ 5 宮廷文化と市民文化の特色は何か？</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>宮廷文化</td> <td>市民文化</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	宮廷文化	市民文化			技・関	第五次		
宮廷文化	市民文化							
<p>■ 6 18世紀後半以降の世界史の展開について、想定できる動きをまとめよう！</p> <p><input type="text"/></p>								

協力者の実践等をもとに国研で作成

(4) 観点別評価の進め方

(5) 観点別評価の総括

協力者の実践等をもとに国研で作成

4観点それぞれの評価方法、
評価の負担感の削減の工夫、
評定への総括方法等について
の提案

4 平成20・21年版学習指導要領のもとでの評価の状況

～平成29年度文部科学省委託調査報告書

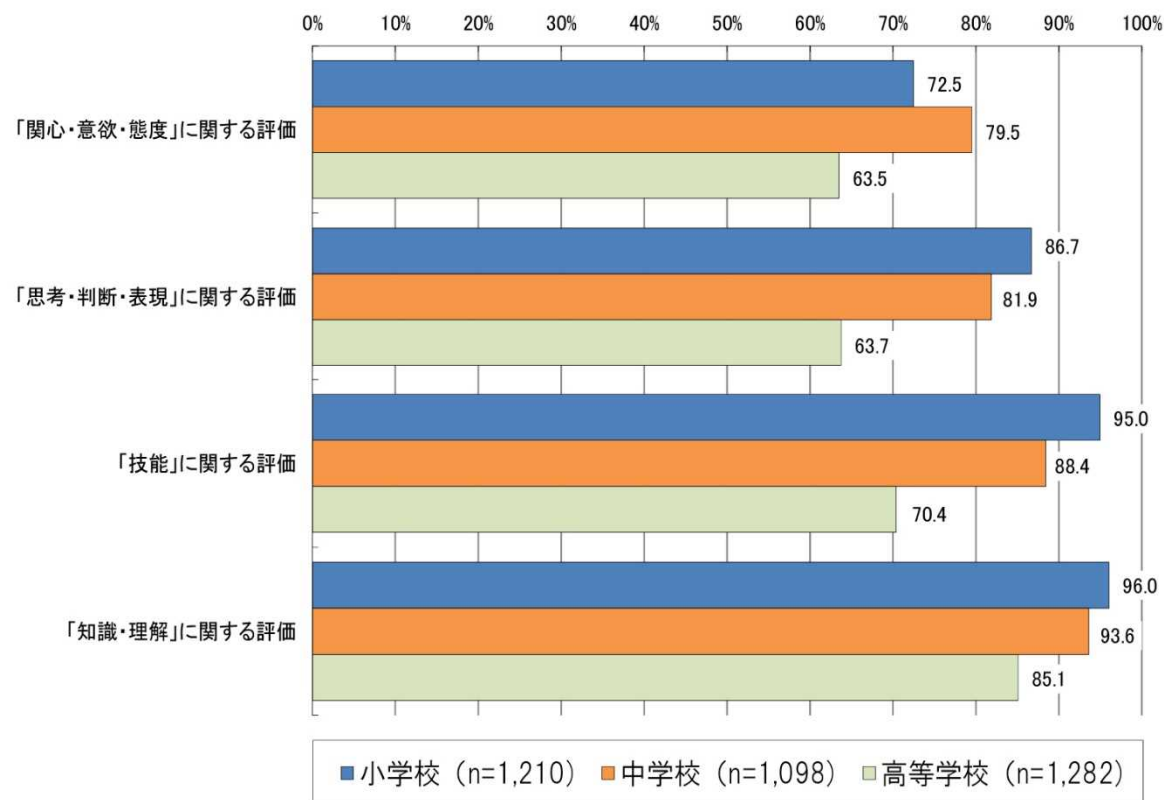
「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」より

① “観点別評価” の実施状況

・「関心・意欲・態度」
→「思考・判断・表現」
→「技能」
→「知識・理解」の
順に課題

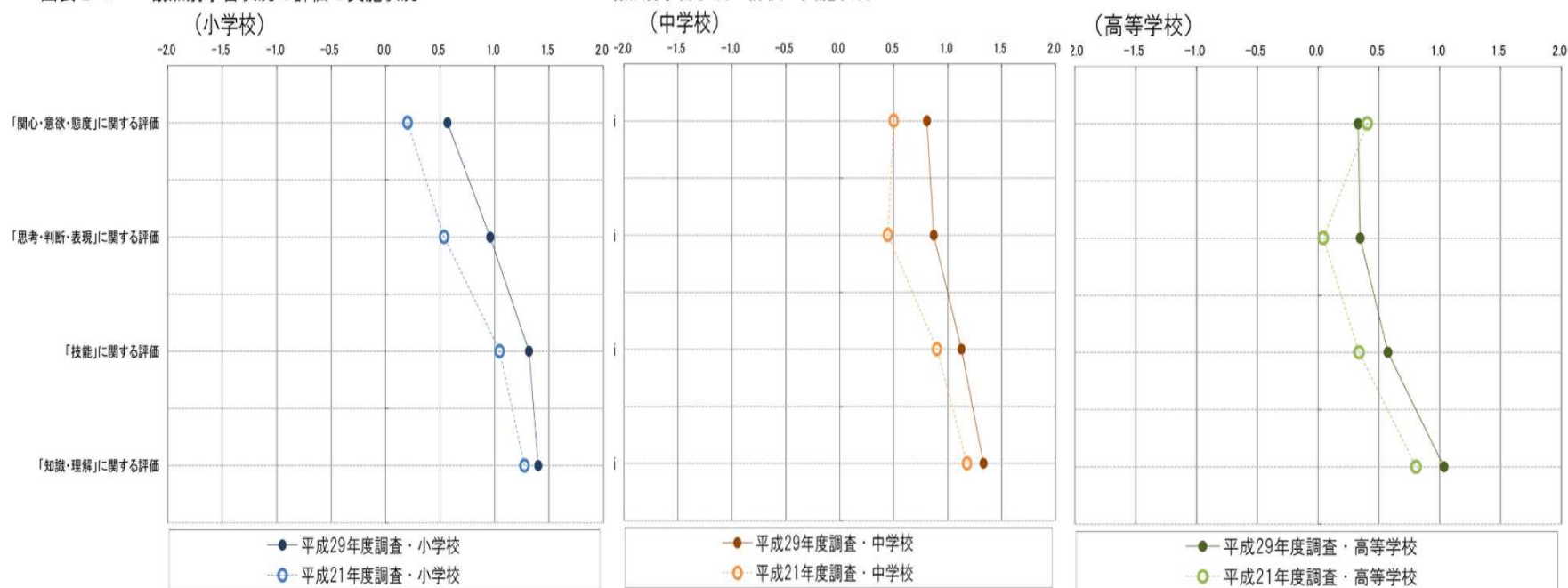
・高等学校での
実施に課題

図表 2-3-1 観点別学習状況の評価の実施状況



②「目標に準拠した評価および観点別評価は円滑に実施できているか」

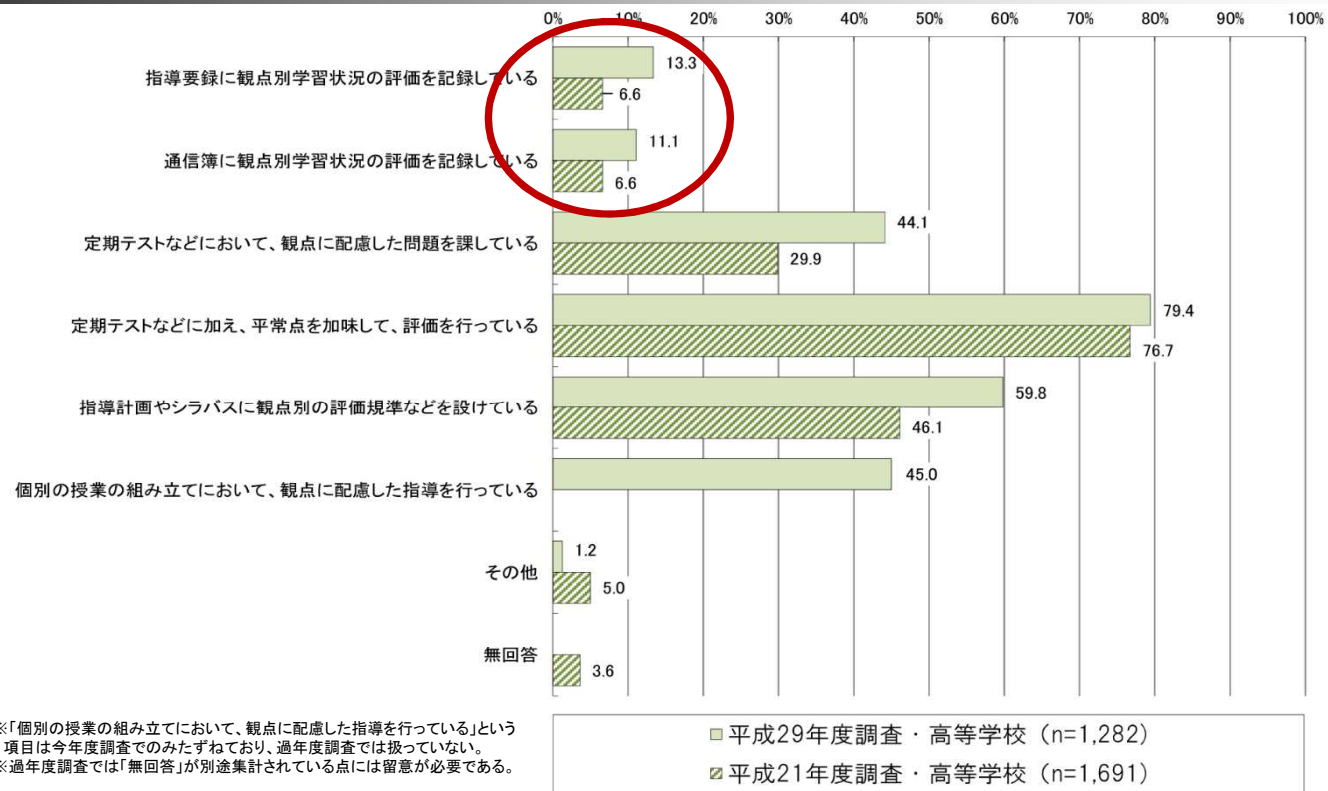
図表 2-3 観点別学習状況の評価の実施状況



※各項目について、それぞれ「そう思う」を+2、「まあそう思う」を+1、「あまりそう思わない」を-1、「そう思わない」を-2として回答を評点化した上で、項目ごとに平均値を算出した。

- ・H21年調査と比べ、改善が見られるが、
「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」は依然として課題
- ・高等学校は小中学校よりも全体的に低調

③「高等学校・観点別学習状況の評価の実施状況」



・H21年調査と比べ、指導要録や通信簿への観点別学習状況評価の記録は増えてはいるが、一割余りの状況



5 おわりに

- ・研修資料等での活用にとどまらない
国研の「参考資料」の利用

- ・年間指導計画を前提とした評価箇所の整理
→指導内容と評価内容, および評価場面(回数)や手法の適正化

- ・カリキュラム・マネジメントにおける要石としての重要性の強調